

アベノミクスという黒船

令和5年11月17日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

アベノミクスは、閉鎖された国内経済システムが完全にグローバル基準とグローバル経済に併合されることなのである。これら国内経済が独自システムにおいて構築されていることが完全に崩壊することであり、その影響は今日有する変化が序曲に過ぎないことを意味する。

これら国内経済は独自システムと進歩において自己を有することに対して、社会変化とともに、根本的な国内システムの崩壊を意味するのである。

これらはグローバル経済の資本力と、自由貿易システムへの併合など、既存システムの完全の崩壊を与えるものである。

これらは如実に国内経済の衰退を今日与えるものであり、これらは国内システムが崩壊することは、グローバル基準が唯一、現実を与えることを意味する。

これらは今日の変化が、序曲に過ぎず、未だ真奥にある国内システムにおいて維持される国家と社会が、これら現実是对峙する時、全ての現実はもはや終わりを迎えることは存在するのである。

これらは世界の現実と直面することは、真の国際人としての自己を求められることなのである。

これらは世界の金融と政治、経済という、絶対的な真実に対して、対等な自己を求めることが、唯一その参加を与えることを証明するものである。

これら世界の現実に対して、唯一の選択は隷属化であることは正しいのである。

しかし未来を求めるならば、唯一の選択は対等性なのである。

これらは、世界の真実に対して、現実がこれを補佐するものであり、現実への参加が唯一の選択であることは、世界の真実に対して自己を行う必要性が唯一存在することなのである。